

白隠の精神を次世代に 東京・渋谷で禅画展開催中



細川景一学長

「渋谷こそはまさに現代の十字街頭」と語る西村元学長

臨済禅中興の祖で、多くの書画を残した江戸中期の禅僧白隠慧鶴の展覧会「白隠展―禅画に込めたメッセージ―」が東京・渋谷のBunkamura

aザ・ミュージアムで開催されている（2月24日まで）。細川景一学長「白隠は民衆教化の手段として多くの書画を残したが、同展では大作を中心に約100点を展示。達磨、釈迦など仏教的なものや七福神やお福など庶民信仰に基づいたもの、動物の擬人化など画題は多岐にわたり、時にユーモラスに描かれる。すり鉢で鬼をすりつぶし、味噌を作る鍾馗など、ユニークな発想や表現の作品も多い。展示解説ではさらに画と替が踏まえる背景などを明らかにし、白隠禅画に込められた宗教のメッセージを読み解

いて示す。12月21日に開かれた内閣会とレセプションで、は「白隠禅画墨蹟」刊行など、同大国際禅学研究所で白隠の墨跡調査研究を進めてきたことを紹介。白隠の禅画について「白隠禅師の禅は十字街頭の禅。皆さまの生きている所に掛けて教えを説く。渋谷こそはまさに現代の十字街頭で白隠禅師活動の場所にさわしい。特に若い人たちに御覧いただき、白隠の精神を次世代に伝えていただきたい」と望んだ。共同監修者の芳澤勝弘・同研究所教授は煙管を手にした布袋が吐き出した煙からお福が現れる作品「布袋吹於福」に触れ、「常に繁華街へ出ていた布袋さんは白隠の十字街頭の禅の象徴で精いっぱい於福さんを吹き出している。この展覧会が白隠さんの吹き出す於福さんになって広がっていくことを祈念する」と語った。

会期末まで無休。午前10時から午後7時（金・土曜日午後9時）まで。問い合わせは、ハロライヤル03（5）777（8600）。